

報 告 部
友 友 会
小 育 三 島
報 告 部
発 行 部

〔第70号〕

が ん ば

竹とんぼづくり

お母さんといっしょ
うれしいな!



この一年に想う

功 博 瀬 成 友 友 会 長

親の子に対しての、願い、希望、そして活動、その結果に「子供のすこやかな成長。」子供達の日々の成長を目のあたりにしますと、子育てについて不安を覚えることさえございますが、そうしたものを町内で、あるいは、学年で「話し合いながら勉強し合っながら実践にあわただしさの中にもう一年が過ぎ去って行きます。そうしたあわたしさの中にも、最高学年として、立派にやっけて下さり、卒業を迎えられた六年生とその保護者の皆様にお祝い申し上げます。

三小という教育環境で小学校課程を終えられたことに感謝したいと思いたく、そのことを誇りとして欲しいし、又、今後の三小と、育友会を、お見守り頂きたいと希望するものであります。さて、御承知のように、今年度は育友会にとって厳しい試練の年でありました。名会長の誉れ高い、前山会長が急逝されたことにより、その柱を失い、その運営の危機に、さら

されましたが、学校側をはじめ、育友会役員、代議員に大変なご心労をいただきました。同時に私たちが町内訪問を通じて、会員各位へお訴えしましたのは「育友会は、少数のリーダーに依存することなく、会員が共に考え、行動することに意義がある。」という最も基本のことからでした。プロジェクト活動の時代と云われるのも、一人一人で行なうより大きな効果が期待されるというところだと思えます。そういうことから、町内対抗バレーボール大会、心配しました相撲大会も、予想をはるかに上廻る参加でした。霧困気が出て来たことと云われます。こうした気運を最も大事にすべきでしょう。

話は変わりますが、近ごろの子供達は、ぜいたくだとよく云われますが、果して子供だけでしょうか。先日、佐世保にある県立コロニーを見る機会がありました。全児童が自力で歩行の出来ない重度の子供達です。胸の痛み思いでした。その子どものフアイト、頑張張り、育成会の活動に、感動をおぼえました。

四月になれば、入学式です。新しい会員を迎える準備を急ごう。



顔

学校長

江崎勝利

朝のすがすがしい空気をすて、鏡の前に座して見る顔。一日の勤めを終え、入浴をすませて鏡の前に座して見る顔。同じ自分の顔なのに、どこことなく違う。それは、顔というより表情といった方が適切かもしれないが、自分の本当の顔は、どんな顔だろうと考えるときがある。というのも、今まで数えきれないほど写った写真の顔が、似てはいるが全く同じ表情のものは一つもないからである。

顔は「人の心を表す」ともいわれる。常に悩みを持つている人の顔は、どことなく寂しさを感ぜさせるし、たとえ目立たなくとも、こつこつと真実仕事に精魂を打ち込んでいる人の顔は、尊敬さを感じさせる。

ともあれ、個人の顔は一つである。この「顔は一つ」ということは、児童・教師・父母を問わず、あらゆる人と対面する時の顔につながる。いうならば、その場に臨んだときの顔が、その人の人格とし

ることのない生きがいのある学習や仕事に没頭しているときの顔である。そして、その顔は一つしかないのである。話は飛躍するが、百八年の風雪に耐え、幾多の人材を育てはぐくんできた三小の顔もまた一つである。その間、時代の流れにに応じていろいろな表情を呈してきたことも事実である。しかし、動かざる三小の顔として続いているもの

それは、白山地区の総意の上にたつて、父母・教師・児童が、個々の意見を率直に出しながら、建設的な立場に立ち、協働して三小のためにと懸命になつていく姿。それが伝統に生きる三小の顔であることを銘記するとともに、それを継承していくことに誇りを持ちたいものである。



短かかった六年間

旧児童会長 田浦由佳

母に手を取られ、希望と不安を入り交じらせて、三小の門をくぐった日から、六年間の月日がすぎさりました。やさしい先生方や、たくさんの方々に支えられ、思いっきりファイトある小学校生活を送りました。いろいろな思い出が心の中に積み重ねられています。淋しかったこと、悲しかったことを乗り越え、強くなりました。うれしかったこと、ほめられたことが自信につながりました。運動会や球技大会

等では、チームワークの大切さを知り、友情の輪が広がりました。しかし、思い出の中にも、中村憲二君や前山前会長さんとのお別れは忘れられない。できない悲しいできごとでした。私達をこれまで指導して下さいました。どうもありがとうございました。

卒業する六年生のみなさんへ

新児童会長 原口有

こんど卒業する六年のみなさん一年間とてもご苦労さまでした。集団登校、運動会集會を、代表委員会など、いろいろかつやくしてくれた六年生のみなさんたちにとっても感謝しています。ぼくたち五年生も、もうあまえてはいられませんが、あたらしい児童会長として、あたらしい六年生として、いままでいっしょけんめいに仕事をしてきた六年生のあとを、しっかりうけつぎます。

どうか六年生のみなさん、安心してりっぱな中学生になってください。中学生になっても、わすれないでほしいことがあります。それはこのりっぱな三小のこと、それとぼくたちのことをいつまでもわすれないでください。ぼくたちも、みなさんのことはわすれません。

ぼくたちも新六年生としてガンバルことをちかいます。さようなら、おたっしやで。



アンケートより

人格形成に大きな影響を与える友達。最近の子ども達の交友関係はどんなものでしょう。広報部では、五・六年生の子ども達へアンケート調査を実施してみました。

明るく元気でおもしろい ことが仲のよい理由

(表 1)

男女とも仲のよい理由の第一位に「明るく元気でおもしろい」を挙げています。明朗さ、活発さ、楽しさといった子ども本来の特質が、友人の傾向として最も好まれていることがはつきりしています。これに続く理由をみますと男女で少し様子が違います。女子は、自分が依存することのできる親切な話し相手を選ぶ傾向がありますし、男子は活発な遊び仲間を選ぶ傾向がより強いようです。

何でも話し合える友達がほしい (表 2)

子どもが最も欲しがっている友達は「何でも話し合える友達」です。ところが、同じ第一位でも男女の比率が大きく違って

ることにお気付きでしょう。二位以下の項目も合わせてみますと、もつとはつきり違いが出てきます。女子は、気の合った少数の友達と心を打ち割って話し合うことができ、秘密を共有することをよって互いの結びつきを認識するという、心理的要素を重視した友達を望む傾向がみられます。

これに対して男子は、遊びや余暇活動と密接なかわり味を持つており、遊び仲間、趣味の仲間という色彩が強いようです。

テレビは話題の情報源

(表 3)

友達と交わす話題は、余暇時間の過ごし方から、人間関係、学校生活、家庭のことなど、広い分野に及び、その情報源は、かなりの部分をテレビに依存しているようです。また、ここでも男女差がはつきりしています。男子には余暇に関する話題が大きな比重を占めるのに対して、女子の場合は他人に関する話題が多いようです。

簡単な調査ですが、子ども達の友人観は純粋で健全なことを確かめることができました。と同時に、小学校高学年の子ども達が、無意識のうちにも、おとなへの接近をはかっていることも感じとることができました。
私達は子ども達の交友を暖かく見守り、私達の与えることのできない部分を、友達の中から豊かに探り出していく姿を大切にしたいものです。

表1 友達と仲のよい理由は何ですか。

順位	男	女
1	明るく元気でおもしろい 90	明るく元気でおもしろい 93
2	遊びに入れてくれる 57	話をよく聞いてくれる 62
3	話をよく聞いてくれる 35	やさしく親切 55
4	やさしく親切 34	遊びに入れてくれる 35

表2 あなたは今どんな友達がほしいですか。

順位	男	女
1	何でも話し合える 55	何でも話し合える 86
2	いろいろなことを教えてくれる 38	秘密を守れる 57
3	スポーツの上手な 34	いろいろなことを教えてくれる 55
4	遊びをよく知っている 34	趣味が同じ 27

表3 ふだん友達と話すことはどんなことですか。

順位	男	女
1	遊びのこと 73	スターやタレントのこと 64
2	テレビ映画音楽のこと 72	友達のこと 57
3	友達のこと 45	テレビ映画音楽のこと 53
4	スポーツのこと 32	遊びのこと 48
5	趣味のこと 30	学校や先生のこと 43
6	スターやタレントのこと 25	家庭や家族のこと 26



です。

八年間の思い出

山口ヤス子



三小へ長男、長女をお世話になり八年、長男の一年生の時ですが、登校拒否をする様になり、その原因がわからず担任の先生に非常に迷惑をかけた事がきっかけとなり学校の様子や、子供の学校での様子を知らる為に、学校行事や育友会活動へも積極的に参加する様になり現在に至りました。

育友会活動に参加する様になって学校の設備の不備が目立った事です。長男が三年生の時、木造校舎で床は穴だらけ、雨もりはすると云うひどいものでした。ランドセルを

子どもの幸せを願って

田浦エイ子

月日が立つのは早いものです。娘の手を引き、本人以上に胸はずませて三小の門をくぐった日から、あつという間に六年間が過ぎようとしています。

入学の日、担任の先生の顔を不安とおそれのまなざしでじっと見つめていたその瞳、それも今はすっかり自信に満ちて輝き、そしてちよびり生意気に親を批判するまで成長しました。一年生の時、

置く場所さえなかったのです。設備の不備な点を少しでも子供達の為に自分達の手で補えないものかと話し合いをする時に出会ったのが前会長の前山さんでした。そのことを校長先生へ通して下さり、その結果として夏休みの間にランドセル置き場を全クラスに設置してもらえたのですが、残念ながら木造校舎は貴重な資料や教材、子供達のものまで全部火災の為に灰となってしまったのです。火災後の学校の設備を少しでも充分なものにする為に、自分達の手で出来る日記に助言して下さいました。赤ペンの一行も、子どもにやる気をおこして下さいました。何らの抵抗も示さず、今日まで大きな体でランドセルをひっかけ登校しました。「六年生まで大事にランドセルを使います」というのが、先生との約束だったのです。教育というものの偉大さに、改めて脱帽の思いと共に、先生方の温かいご指導、ご努力に感謝いたしております。前途は長く険しい道だろうと思いますが、小学校卒業という一つの筋を迎え、次のスタートラインに立つ子どもの後ろ

ないものかと話し合ったのがバザーです。三小の校区の方方には大変無理を云ってバザーで売るものを提出していただいたり、食品コーナーで売るとか夜も駆け廻ったのが、バザーの様な気がしますが、育友会活動も終ってホッと急逝されてしまいました。子供を卒業させるに当り、三小を通じて知り合いになれた、校長先生はじめ育友会の会員の方々、大変お世話になりました。最後になりましたが、三小並びに育友会の発展を祈念致しまして終らせていただきます。

九年間の育友会活動を通じて、多くの先輩のみなさんや友達と出会い、いろいろな人生勉強をさせていただいたことは、無知な私にとっては、自分自身へのプレゼントでした。講演会で話を聞くお母さん達の眼は、光り輝いていました。我が子の幸福を願う素晴らしい眼だと感じしたものです。最後になりましたが、三小育友会の益々の発展と、会員の皆様のご健康をお祈りします。長い間お世話になりました。ありがとうございました。

謝 辞

卒業生父兄代表 馬場 武 弘

卒業生父兄を代表して、お礼の言葉を申し上げます。光陰矢の如し、本日に月日の経つのは早いものです。いつしか六年の歳月が過ぎ去るうとしていきます。校長先生をはじめ、諸先生方もいよいよお別れの日がやって参りました。振り返り見ます時、いろいろなことが走馬燈のように浮かんで参ります。六年前、子どもの手をとって不安と期待に胸踊らせながら校門の階段を登った日が、つい昨日のように思えます。何にもわからなかったあの時の子ども達も、今はこんなに立派に成長し、卒業するころが来たのも、校長先生はじめ、諸先生方のご指導の賜と心より感謝申し上げます。今日を限りこの三小を卒業し、諸先生方とお別れしなければならぬのかと思ひますと、胸がいっぱいでございます。

子ども達は、明日からいよいよ中学生として進学するわけですが、今まで学んだこと

や、諸先生の教えを忘れず、希望と勇気をもって、正しい道を進みご高恩にお報いするため努力を惜しまないものと思ひます。

校長先生をはじめ、諸先生方には永い間本当にありがとうございました。どうぞいつまでもお元気で、子ども達を見守っていて下さいますようお願い致します。

最後に在校生父兄の皆さん永い間お世話になりました。育友会員として、何一つお手伝いも出来ず、去って行くことに後髪を引かれる思いです。今後共、三小と三小育友会のみまますの発展を心からお祈りして、お礼とお別れの言葉にかえさせて頂きます。



母の言葉

六の一 池上 幸子

赤いランドセルに、胸ふくらませて、初めて三小の門をくぐってから早や六年、「ほんとうに、もう六年もたったのだらうか」とふしぎに思われるくらい「あっ」と言う間の六年間でした。ふり返つてみれば、あれもこれも、みんなみんな楽しい思い出ばかりです。

思い出

でも、私にとって最高にうれしい思い出は、何といっても、六年になって「地球の仲間」の読後感想文で、長崎県下百三十校二千四百人の中から選ばれて、最優秀知事賞をいただいたことと、続いて海の子作文で長崎

さびしいけれど...

六の二 高橋 弘

三小生活もとうとうあとわずかになりました。ぼくたち六年生は、はりきって中学校へ入学します。また、三小でのいろいろの思い出があります。一年生の時、ピカピカの

新聞社賞をもらったことです。二月に長崎新聞社の人が、学校に私の写真を取りに来られたそうです。その後、担任の織田先生が、私に「池上さんよかったね。又、三小の名前が一段上に上がったよ。先生もうれしいよ。」と言って、一緒に喜び、はげまして下さいました。私は、この言葉を聞いた時、喜びと共に母の言葉を思い出し、「やっつた」と言う実感がこみ上げてきて、胸が一ぱいになりました。母の言葉と言うのは、「人間は家庭でも、学校でも、職場でも人のためにならなくてはならない人になりなさい」と言う事です。

「三小の名前が一段上がったよ」と言う先生の言葉に、私も少しでも「学校のためになれたのだ」と言う喜びで、ランドセルを背負って入学したことや、友達との楽しい思い出、四年生の時、長崎見学での楽しかったことや見たこと、そして、五年生での千々石少年自然の家での初めてのレクレーションや、フアイヤーストームなどや、部屋でまくら投げなどをしたこと、また、新校舎落成の時のパザール、そして、六年生の修学旅行で楽しい見学や、旅館内でのいろいろのなできごとなど、

一ぱいです。この喜びと母への感謝の気持ちをこめて、卒業の思い出にします。この母の言葉をしっかりと私の心にうけとめて、中学に進んで、これからも一そうがんばって行きたいと思っています。



六年間をふりかえってみると、たくさんの思い出がわき出てきます。これらの思い出を三小に残して、ぼくたち六年生は中学へ入学します。考えてみると、とてもさびしい気持ちになります。今までの小学校でのいろいろな経験をもとにして、中学校に行ってもいっしょうけんめいがんばりたいと思います。



六年間を

土台にして

六の三 下 田朋美

教室の窓から、芽をふくらませていく大きないちじょうが見えます。この芽がもつとふくらむと、私たちは卒業です。六年間、勉強した校舎とも、先生方ともお別れです。今年一年生からの思い出がぎっしりとつまっています。楽しかった修学旅行、秋の運動会、遠足、新年お楽しみ会、マラソン大会などいっぱいありました。いちばんたいへんだったのは、最高学年としての責任でした。町内や委員会の部長

普賢登山

六の四 酒井玲津子

私の頭の中は今、いろんな思い出でいっぱいです。その中でも、とびきりなのがあの「普賢登山」じゃないかと思えます。それはあの遠足が特別きつかったから、それもあつたし、もう一つ私が学んだかけがえのないことがあるからです。全員が力を合わせ、きつても一生けん命がんばったあの気持ち、とてもすばらしいものでした。苦しめても前を向いて挑戦してみたこと、その後の「やりとげた」とい

として、三小をりっぱにする責任がありました。そのために、悪い事をしないように心がまえてきました。今までの六年間の生活を生かして、中学生になっても楽しかった行事や仲良しだった友達、担任だった先生のことをいつまでも忘れないと思います。私たちが卒業しても、残った後輩たちは、楽しい小学校生活にし、三小をしつかり守っていてほしいと思います。



有意義な活動

体育部 熊本勇治

五十七年の体育部の行事は七月の水難救助法の講習会、この時は土曜日の午後ということもありました、父兄の参加は、思ったよりも少なく、約十五名の参加でした。三小のプールで夏の日差しが強い時に行いましたが、前会長の前山さんは、プールに入り一生懸命救助法を学ばれた姿は、今でも昨日のように思い出されます。

専門部一年間を省みて

夏休みに入りまして例年行われる子供クラブ対抗のソフトボール、フットボール大会、二学期に入り、九月十五日の三小子供会町内対抗相撲大会、この大会は始めての大会で、いろいろ心配いたしました。父兄の皆さんや、部員、役員の方々が協力して戴きましたので無事終る事ができました。この相撲大会は、次年度も引き続き開催していただきたいと思っております。十五日に続き十九日は親子フットボール大会。お母様方は、た

いへんご苦勞様でした。十月に入り、学校最大の行事、運動会へは、育友会として、去年までは綱引で参加させていたいただいておりましたが、私達の小学生の頃を思い出して父兄の方々にも、町内対抗のリレーをやったかどうかという意見が多く、学校の方へお願いし、快く承承していただきました。運動会当日は、父兄の皆さんの協力により、予定時間内に終了する事ができ、大変感謝いたします。

十一月には、町内対抗バレーボール大会、各町内の参加が去年より七チームも多く参加して戴き、去年までA・Bクラスを、今年からはCクラスを増し、大変親睦を深め、楽しい一日でした。このように一年間を振り返ってみますと、父兄の皆さんは、一学期と二学期は体育部の行事で、目がまわるような忙しさではなかったかと反省しております。行事どれをとっても意義があり、来年度も是非やっていただきたい行事ばかりだと思っております。

今年一年ご協力いただきまして、ありがとうございます。



好評だった

ミニ講演会

学級部 藤井リワ

三学期も、残りわずかとなって参りました。学級部の年間行事も皆様のご協力により、無事終了する事が出来ました。五月学級代議員研修会には、多数の方に出席していただき、学級代議員の任務、集会の持ち方など、加藤先生にご指導いただきました。初めて代議員さんになられた方々には、お役に立てていただけたと思います。

土俵横に足洗い場

環境部 高原寿一

昭和五十七年度も、あと一月余りとなり、例年のごとく反省する時節となりました。此の一年をふりかえれば、年度当初の計画も一部しか実行出来ず、相も変わらず、なんとなく過ぎ去った感じがします。今年度も最後の去る二月二十日(日)、角力場横に足洗い場を設置致しました。

この日は小雪がちらつき、一段と厳しい寒さの中を、又日曜日で何かと(行事等)御多忙の中を、学校側より校長先生を始め教職員の方々、育

次に、第五回学級対抗親睦バレー大会も、練習日、試合当日と先生もまじえて、お互いに親睦を深めていただけました。勝敗はぬきにして、応援合戦、珍ブレイと笑いながらの、楽しい一日でした。本年新しい試みに、身近な方に身近な話題を、学級友会の前に時間をいただき行ないました。名付けて「ミニ講演会」一学期江崎校長先生に、低学年の保護者の皆様を対象にわずかな時間でしたが、お願い致しました講話内容「子どもは今、父母は今」は大変好評でした。二学期六年生と

友会側より会長さんを始め常任委員の方々、皆様方が多数御助力下さり、予定時間より早く終了(午前九時作業開始午後三時頃作業終了)することが出来、心より感謝申し上げます。環境部長になって四年、毎年の様に事業の繰越しが続いております。今年こそは、今年こそはと意を新たにすもの、すべてに力が及びませんでした。このことを深く反省致しております。

専門部活動は、やはり部長の行動力に比例するようです。来年度からは、若い行動派の部長さんが誕生されて、環境整備に大いに活躍される

一緒に米飯料理教室、もちつき大会に参加しました。杵をついたモチ、思い思いに握ったおにぎり。素晴らしい体験が出来ました。毎年六年生にこんな思い出を作ってやれたら良いですね。三学期教養部と共催で江崎校長先生の親子、織田先生に海外研修視察の講演をいただきました。めまぐるしく移り変っている現在、家庭教育の大切さを認識して子供達を育てる。あとは親がどこまで実践するか。努力していきたく思います。最後に諸先生、部員の方々、会員の皆様のご協力、深く感謝致します。本当にありがとうございます。

よう今後に期待したいと思います。



子供の好奇心に 目配りを

生活部 古井久輝

毎年行なっている初市巡視も終わり、本年度生活部活動も一応終了することになりました。

一学期から二学期にかけての町内訪問、研修会(あいさつ、非行について)毎月の町内巡視、生活標語の募金と掲示、五十七年二学期に結成された白山地区健全育成会「目標・あいさつをしよう」(まず各家庭から大きな声であいさつしてみませんか、それによって親子の対話も生れてくるのではないのでしょうか)例年と変わらない行事内容でしたが一生懸命やってきました。ビックリしたことに、高学年の生徒にタバコを吸っていた子供がたくさんいて学校でも吸っていたこと、万引も少々発覚されたこと等、子供は好奇心からそれらのことに興味を持つのだらうと思われます。それらがエスカレートしていけば、とんでもないことになりかねません。そのようなことを耳にした生活部では急遽年末、年始の巡視をすることに、ゲームセンターなど諸先生と一部ではありましたが会員の方にお願ひして、巡視してまいりました。スーパリーのゲー

ムコーナーでは子供同志でゲームに夢中になってる姿も見られました。

ご家庭でも今後共、充分気を配られ、お子さんのご指導をお願い致します。一年間ご協力ありがとうございました。

楽しかった

「もちつき大会」

保健給食部

岩本 宏三

今学期始め本田、有川先生と部員七名で年間計画をたてましたが、給食試食会だけ実行できませんでした。報告いたします。試食会では調理員さん、松尾さんにはいろいろと御世話になり、米飯給食をおいしくいただくことができました。

試食会にも父親の参加をお願い致します。

又、夏休みに給食シンポジウムは、長崎水害のため中止になりました。

三学期に行なう予定でした料理教室は、二学期の末に六年生の子と親の

米飯料理教室

(もちつき、おにぎり大会)にかえさせていた

だきましたこと

を、深くおわび



交通環境を みんなの手で

交通部 小島健一

昨年四月より交通部を担当いたしました。まもなく一年になろうとしています。

各町内育友会皆様のご協力により、毎月五日の交通指導は定着してきました。

自転車の一斉点検は雨にた

たられ、七月十九日と八月九

日の二回にわたって実施いた

しましたものの、やや徹底に

欠けた点を反省しています。

十月二十四日には、初めて

の試みとして「楽しい自転車

乗り大会」を実施、それなり

の成果はあったものと考えて

います。ご協力いただきました

交通安全協会、学校、白山地区交通指導員、自転車の皆様方に厚くお礼申し上げます。児玉、阿比留両副部長さんを始め交通部員の皆様、育友会員の皆様方にも大変ご協力いただきました。

通学路の危険箇所などもチェックいたしました。この改善は今一歩のところ。我が子、他人の子の区別なく、子供たちが安全な環境の中で健やかに成長していくことを願って止みません。追伸、十月三十一日の母子の交通安全パレード参加者の皆さんお疲れ様でした。

父親心得十三条

教養部

岩崎 暁子

五十七年度の教養部の年間反省をして見たいと思います。今年度予定していた研修旅行、新会員の研修、町内訪問、講演会と四つの行事を無事終了することができました。これも会員の皆様のご協力のおかげです。

陰と深く感謝致しております。研修旅行は、六月十一日に大村の放虎原小学校に視察に行き、学級集会の運営、活動等について多くのことを学ぶことができました。

次に新会員の研修は、一年生の父兄を対象にPTAのしおりを配布し、PTAの仕組みや役割りについて勉強していただきました。

しかし、教養部としても初めての試みで、不慣れなことも多く、時期、説明の方法など次年度への課題を残しております。町内訪問については、前号の「がんば」にくわしく記載されていきましたので省略します。

講演会は二月十五日に学級部との共催で実施しました。今年度は身近な先生に肩のこらないお話しをという事で、江崎校長先生に「親子の立場アジア諸国を歴訪された、織

田先生に、スライド映写による「海外教育事情視察報告」について話していただきました。当日は寒い中、約二〇〇名ほどの参加者で、会場も一杯になりました。お二人のお話は大変に、わかりやすく、しかもユーモアがあり、時間が短かったのが残念でした。内容をくわしく書きたいのですが、紙面の都合上、今回は校長先生のお話しの中から、お父さんたちへ次の文章を

※頼りになる父親に関する

十三章

一 父よ三度の出番を自覚しよう。

二 父よ母と協力体制をとれ

三 父よ静かなる存在であれ

四 父よ子供の前に立ち塞がれ

五 父よ無言の圧力をかけよ

六 父よ人生を語れ

七 父よ自身自身のために働け

八 父よ子供達は見ています

九 父よ子供の性に気を配れ

十 父よ厳しくしなれ

十一 父よ話題を広げよう

十二 父よ自己の変革に努めよう

十三 父よ理想をみさせ

いかがですか?でもこれには

お母さんの協力も必要では

ない

ない

ない

ない

ない

教師の目

まっすぐに伸びよ

一年担任 有川クニエ

三小に赴任して、早いもので、三年が過ぎてしまいました。子ども達の頃、毎日通った母校の校庭に立ってみると、自分の小さい頃を思い出して、懐かしさがこみあげてきたこともたびたびでした。

運動会や遠足、勉強した教室、登りおろした階段、お世話になった先生方の顔などが、この頃のように目の前に浮かんできます。母校は、

子どもウラヲ紹介

元舟津

塚野 靖

ぼくたちの町内は、男子十一名、女子八名、合計十九名です。六年男子は、ぼく一人、女子は二人です。

一年に一回球技大会に参加しますが、選手が少ないので坂下、八幡町とがっぺいして練習しています。みんなよくがんばっています。

月に一回川そうじをしています。朝八時半に、長ぐつをはいて川に集まります。そこで道具をもらってそうじを始

めまします。川には、ゴミやビンなどがおちています。それをみんなでひろいゴミぶくろに入れて入れます。川はきれいになります。また、ときどきゴミひろいもします。くばられたゴミぶくろをもつて、手で道路におちているゴミをひろっています。そのようすが、テレビにうつったことがあります。ぼくが卒業しても、川そうじや、ゴミひろいをつづけていってほしいと思います。球技大会や、町内の行事もみんな協力してがんばってほしいと思います。

器、新しい教育理念に基づいた、先生方の熱心な御指導があった、のびのびと、明るく生活をしている子どもたちは、幸福だなあと感じます。私が三小にきて、いろいろなことがありました。中でも心に残ることは、二ヶ年における道徳指導の研究です。指導したことが、すぐ成果として見えにくい。また、恵まれた環境にありながら、様々な問題を抱えている現代の子どもたち。そのような状況で道徳指導と実践の結びつきを特活とのセット化に着目した研究は、ユニークなものではなかったかと思えます。研究にあけた日々でしたが、その中で、私自身、どれだけ成長させられたかわかりません。

定着した

コラム欄

広報部 山下利 秋

三小の子どもたちは、元気があり、明るく、のびのびと生きていて、いつも、元気な声で、はっきり返事をしてくれます。とくに、一年生を受けて習に励む子どもたち、ときには、こちらがたじたじとなるような急速、教師を信頼してついてくる子どもが、まことにすばらしいものがあります。

学校と育友会のつながりをもつ役として、大隅先生、坂梨先生と部員八名のスタッフでスタートした広報紙作りもアツという間に一年間が過ぎようとしています。各号の内容企画の部の部会に始まり、原稿依頼、写真撮影、校正、わりつけが終ってりっぱに印刷された『がんば』を手にする時、この上もない喜びを感じます。今まで特集号としておりましたのを、今年度から、本号に入れて年五回の発行になりました。

編集後記

今年度最後の「がんば」七十号をお届け致します。三小育友会をご卒業される会員の皆様には大変長い間御苦勞様でした。今後地域との連帯を深め、今までも同様、御指導、御鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

この一年間、御多忙の中にも、貴重な原稿をお寄せ下さいます。御意見、御希望をがんにの箱へお寄せ下さい。又、御多忙中にもかかわらず貴重な原稿をお寄せ下さいました方々には、心から感謝申し上げます。

この一年間、五回発行致しましたが、いかにがでしてしようか。御意見、御希望をがんにの箱へお寄せ下さい。又、御多忙中にもかかわらず貴重な原稿をお寄せ下さいました方々には、心から感謝申し上げます。

